

3 評価委員の前年度の意見に対する対応等

前年度の事務点検・評価において、評価委員よりいただいた意見に対する対応等を示します。

(1) 学校教育分野

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
全体について	<p>「主体的に学ぶ力の向上」「豊かな心の育成」「社会的自立に向けた強い心の育成」「教職員の資質・指導力の向上」「特別支援教育の充実」「いじめや不登校の未然防止と早期発見・解消」「学習や社会生活が困難な子どもへの支援」での記載内容は、教職員が直接かかわる箇所だろう。そこで書かれている授業の工夫も様々な改善も教員と児童生徒が日々向き合う中での実態把握や理解から生まれる。今後、教員がそれらに取り組む時間や考える余裕が十分確保されているか、教育施策が学校や教員に必要以上の負担になっていないか実態把握をしながら計画をしてほしい。</p>	<p>学校に過度な負担を掛けないように配慮しながら、各所管が学校や教職員の实態把握に努めてきました。教職員が児童生徒と十分向き合う時間を確保できるように、通知文書や調査、提出文書の厳選及び電子化を行い負担を減らすなどの取組をしたほか、学校、教職員の働き方改革に向けた取組を教育委員会全体で行って来ました。今後も、学校や教職員の負担に十分留意した上で、学校訪問等を通して実態把握を行いながら、本計画を推進してまいります。（教育改革推進課）</p>
生命（いのち）の安全教育推進	<p>(1)各取り組み 「教育・啓発」「相談体制」「周知」「点検」の観点から実施内容について報告があった。学校長が学校の死角となっている場所の点検や声掛け等を実施していることや、養護教諭対象に被害児への聞き取りの研修実施の報告等があった。子どもを性暴力から守る仕組み等の説明もあった。千葉市の各取り組みについては、全国的に見ても進んでいるものといえよう。今後も、それらの仕組みや取り組みが、適切に機能しているかを検討してほしい。</p> <p>(2)児童生徒への教育 千葉市教育委員会では資料作成等もされているが、閲覧や配布だけで終わらないよう、指導の工夫を考えるための教員への支援や、新任教員も実施できるような情報共有、教材や活用可能な補助資料の充実も継続的に必要であろう。さらに教材使用や強化月間の時期等についても、それぞれの学校や児童生徒の実態に合わせて実施できるよう授業者や学校の裁量範囲の幅も検討の余地があるかもしれない。</p>	<p>R5.4に「千葉市児童生徒性暴力等防止対策検討委員会」を新たに立ち上げ、実効性のある対策について調査審議する体制を構築しています。</p> <p>また、R6.4に同委員会から性暴力等から子どもを守る取組について答申が出されたことを受け、学校の死角点検の改善、計画的な研修の実施、性暴力発生時の初期対応フローの周知徹底などを重点取組項目に設定し、実施しています。</p> <p>今後も、各取組を形骸化させることなく、適宜、改善を図るとともに、その効果を測定し、評価する体制を継続します。（教育職員課）</p> <p>毎年、年度当初の4月を「生命（いのち）の安全教育月間」に設定し、市内の全学校で生命の尊さをテーマにした教育や啓発などに取り組んでいます。当該取組が閲覧や配布だけで終わらないよう、以下のような工夫を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主たる教材やリーフレットを活用した学習を実施しているほか、校内の死角や鍵の管理状況についても点検しています。 ② 指導者によって大きな差が生じないように、説明用の資料を作成し、適宜活用できるようにしています。 ③ R5からは動画教材を新たに加え、GIGAタブなどで視聴が可能となったほか、 ④ 校内研修に適宜活用できるよう、教職員向けの動画教材や、児童生徒向けの動画教材も紹介しています。（教育職員課）

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
小学校 ライト ポート の設 置 (不 登 校 対 策)	<p>(1) 系統的で実態に即した支援 千葉市の不登校対策では「個別での支援」「少人数での支援」「集団での支援」「多様な支援」と児童生徒の希望と実態に合わせ相談して選べるような場を設けている。不登校の理由は一つに絞ることはできないと言われている。児童生徒の状況や家庭環境、背景も益々多様になっている。今後も児童生徒の状況に合わせて、支援内容を選ぶことができるよう、周知の在り方や各支援の接続等をその都度検討をしながら継続してほしい。</p>	<p>教育センターでは、不登校児童生徒の集団生活への適応、社会的自立をめざした系統的、段階的な支援を行っています。その内容について教職員には会議や研修等を通して、保護者にはホームページや文書を通して継続的に周知を進めています。今後も、児童生徒の状況に応じて適切な支援内容や関係機関を選択することができるように、教職員・保護者向けのリーフレットを作成し、更に周知を図ります。また、児童生徒への支援の場に、カウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの有資格者を配置しています。今後も、専門の見地からのアセスメントを行い、児童生徒の状況に応じて各関係機関に接続できるように取り組んでいきます。（教育センター）</p>
	<p>(2) 設備の拡充と小学校との連携 設置されている大森小学校にはライトポートで学習指導ができる教員の加配が令和5年度からあり、小学校とライトポートを繋ぐ役割を担っている。そのことで、設置設備や活動の実施等がより生きて動いてきたといえる。今後も加配の計画と実施を継続してほしい。</p>	<p>令和5年度にライトポート設置校の大森小学校、真砂西小学校の2校に1名ずつ教員を加配し、児童への学習指導や小学校とライトポート間の設備使用の調整等、連携を図りました。令和6年度には、ライトポート設置校の千草台東小学校に主幹教諭を配置しています。今後も更なる学習指導の充実、小学校との連携を進めることができるように、主幹教諭や加配教員の配置について検討を進めていきます。（教育センター）</p>
	<p>(2) 設備の拡充と小学校との連携 ライトポートに関しては現在各区で1か所となっている。自宅から1時間程度かけて保護者の送迎で来る児童生徒もいるそうである。行きたいと思った時に行ける物理的・心理的な距離の確保や、安全の観点からも状況を把握しながら増設の検討も必要だろう。</p>	<p>令和5年度は全ライトポートを合わせて408名の児童生徒が通級し、小学校専用教室の設置の効果から、通級児童が123名（令和4年度）から181名と大幅に増加しました。通級児童生徒数の増加に対応し少人数での支援をより充実させることができるように、そして、物理的・心理的な距離の確保を図れるように、安全の観点からも状況を確認しながらライトポートの増設について検討を進めていきます。（教育センター）</p>
	<p>(3) 指導員の拡充 ライトポート等の運営が円滑に進み、児童生徒が安心して行くことができるのは指導員の影響が大きい。しかし指導員は全員非常勤職員であり、上限の勤務時数が決められている。児童生徒が指導員を必要としている時に来ることができなかつたり、指導員自身が給与面で勤務を継続することが難しかったりする状況といえる。先を見据えて各児童生徒の支援計画をたて、育ちを継続的にみていくためには、指導員も児童生徒も安定し双方が信頼に基づく関係性をつくることのできる環境を整えることは急務ではないだろうか。指導員が正規職員として勤務できるような雇用形態の見直しも必要であろう。</p>	<p>児童生徒の状況に応じた支援を行うために、担任連絡会等を通して、在籍校教員と指導員が児童生徒の学習や生活等の状況を共通理解し、支援の在り方について検討を行っています。今後も、在籍校教員と指導員が支援の在り方について検討する場を設け、計画的・継続的に支援を行うことができるよう努めていきます。また、指導員が児童生徒と信頼に基づく関係性をつくることのできるように、指導員研修を毎月実施しています。令和6年度は、ライトポート設置校に主幹教諭を加配し、指導員に助言等を行い、信頼関係づくりの支援に取り組んでいます。今後も、指導員への研修等を行うとともに、指導員がよりよい環境で勤務できるよう環境整備に努め、雇用形態の見直しについても検討を進めていきます。（教育センター）</p>

(2) 生涯学習分野

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
全体について	<p>近年では、「社会人のための学び直し」といった雇用に関わる個人に帰属する学習が重要視されがちだが、この調査によれば、地域に根ざした対話、関わり合い、協働を通じて培われる、生きがいや人生の豊かさをもたらす学習への市民ニーズが高いことがわかる。このような市民ニーズがあることを、生涯学習関連事業を行う上では十分認識する必要がある。</p>	<p>市民の学習ニーズや地域の特性などを踏まえ、地域にゆかりのある人物や歴史、郷土料理などを学ぶ講座、健康セミナーや終活講座などの高齢化社会に対応した講座などを地域団体や民間事業者などと協力し実施することで、多様な学習機会や地域住民の交流の機会を提供しました。 (生涯学習振興課)</p>
	<p>生涯学習は個人の自発性に委ねられるものであり、市民の施設利用の多寡を問うことは行政的には難しいことであろう。しかし、「今後利用してみたい施設」と「1年間市民が利用した施設」の差に関して注目すれば、利用したいとする層に対してさらなる働きかけを行うことは重要である。新型コロナウイルスの感染拡大防止で利用の自粛が解除されつつある今日、魅力的講座・イベントなどの周知により、よりアクセスしやすい施設づくりを目指して欲しいと思われる。</p>	<p>アクセスしやすい施設づくりとして、市政だよりや SNS（X、Facebook）による講座やイベントの情報発信に取り組みました。 (生涯学習振興課)</p>

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
加曾利貝塚博物館の管理運営	<p>(1)市民の関心喚起 南貝塚と北貝塚からなる現在の状況が、千葉市民の手によって守られたとのストーリーは、千葉市民全体で共有されるべきことであり、その偉業を半世紀たった今、再度広く市民に伝える必要があると思われる。</p>	<p>博物館の常設展示で加曾利貝塚の保存運動について展示をするほか、博物館エントランスで「貝塚の守り人 悠久の宝を未来へ」を放映しました。 (文化財課、加曾利貝塚博物館)</p>
	<p>(1)市民の関心喚起 ホームページにおいては、「館長の考古学日記」、職員の「加曾利の人●（イニシャル）の部屋」などの内容は面白く、学術的内容をわかりやすく情報発信する積極的取組みを継続的に行っていることは評価できる。ツイッター（現在はX）による発信も加曾利貝塚を身近に感じる内容である。千葉市のホームページなどに広くリンクが貼られることで、より児童・生徒や市民の目に触れるような仕組みができると良いと思われる。</p>	<p>定期的な更新ができるよう工夫しつつ、今後も継続的に取り組んでいきます。 (文化財課、加曾利貝塚博物館)</p>
	<p>(1)市民の関心喚起 夏休み中に開催される「学芸員になんでも聞ける縄文自由研究相談室」の企画は良い。ただし、加曾利貝塚博物館へのアクセスが、近隣住民以外はバス、モノレール、自動車などの交通手段によらざるを得ないため、子どもが相談室に来るためには保護者の帯同が必要となり、相談室の利用は保護者の教育意識に左右される恐れがある。そのため、よりアクセスの良い施設を利用した出張相談室の開催が考慮されても良いように思われる。</p>	<p>出張イベントなどの中で実施可能か検討しています。 (文化財課、加曾利貝塚博物館)</p>
	<p>(1)市民の関心喚起 小・中学校への「自由研究相談室」などへのアウトリーチやレブリカ利用によるモバイル・ミュージアムなど、柔軟な発想で子どもがより身近に加曾利貝塚博物館の教育資源が利用できる工夫がなされることが望まれる。</p>	<p>夏休み縄文ウィークのプログラムの一つとして、「学芸員による縄文自由研究相談室」を実施しました。相談室実施時には、質問事項をあらかじめメモし、相談室を目的として来館する子どもも見られました。 (文化財課、加曾利貝塚博物館)</p>

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
加曾利貝塚博物館の管理運営	<p>(2) 施設整備後の教育資源としての活用 新しい博物館建設のグランドデザインが市から提示されており、今後、それに沿って新しい加曾利貝塚博物館が整備されていくことになる。新しい施設活用についてのコンテンツについては、事前に検討されることが望ましい。市民の意見をワークショップなどで吸い上げ、市民参画によるプログラム構築も一考であろう。</p>	<p>新博物館で提供するプログラムは、整備運営事業者が決定したのち開館までの間に、事業者のノウハウを最大限に活かしながら開発するよう考えております。市民参画の視点では、加曾利貝塚で活動するボランティア団体等と連携した教育普及事業の実施を検討していきます。 (文化財課、加曾利貝塚博物館)</p>
	<p>(2) 施設整備後の教育資源としての活用 今後、動物公園や科学館、学校等と連携し、相互交流を伴う事業を展開するとのことであるが、そのほか、図書館と連携し縄文関連の所蔵書籍の共同展示を行うことや、生涯学習センターと連携し成人向けの学習プログラムの一層の充実を図ることも一考であろう。また、教育センターと連携し、児童・生徒向けのプログラム策定や学校の教員に対する講座提供の検討なども、以前アイデアとして伺ったが、この機に積極的に広げていくことも望まれるであろう。</p>	<p>相互交流の取組みとして、加曾利貝塚について簡潔にまとめたパネルを作成し、図書館で出張展示を実施しました。 教育センターの研修の一環で、初任者研修と中堅教諭等資質向上研修を加曾利貝塚で実施しておりますが、初任者研修では郷土の歴史を知ってもらうきっかけとなるよう、団体利用の幹旋や火おこし体験を行っています。また、中堅教諭等資質向上研修では、加曾利貝塚で実施している教育普及活動のほか、加曾利貝塚や博物館に対する知見を深めるため、野外施設の管理などを体験する取組みを行っています。 (文化財課、加曾利貝塚博物館)</p>
	<p>(2) 施設整備後の教育資源としての活用 このような連携に関しては、同様の縄文時代貝塚遺跡の活用を進める市原歴史博物館との資源活用、交流等の連携協定を締結したことは高く評価できる。今後も、千葉市内外の学習の場との有機的連携により、加曾利貝塚博物館の意義を社会に広めてもらいたい。</p>	<p>市原歴史博物館の特別展「いちはらのお薬師様－流行り病と民衆の祈り」の開催に連動し、当館では企画展として「市原歴史博物館×加曾利貝塚博物館 2023－縄文人のお祈り－」を開催しました。また、展示に関連し、令和5年度加曾利貝塚博物館・市原歴史博物館連携講座「祈りの系譜」を開催し、相互交流を図りました。令和6年度も同様に、連携展示・連携講座を実施予定です。 (文化財課、加曾利貝塚博物館)</p>

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応等
千葉市 科学館 の管理 運営	千葉大学をはじめとして、千葉市内の大学や研究機関の研究者を積極的に登用していることも良い試みと思われる。そのような大学・研究機関とのコラボレーションが展示のみならず、様々な面で展開されることが望まれる。	現在でも、教育普及事業の一環として「大人が楽しむ科学教室」や、講演会等で大学や研究機関に協力いただいておりますが、より一層力を入れて進めていきたいと考えています。（生涯学習振興課）
	今回登場した、学術の最先端を紹介する南極ニュートリノ検出器「アイスキューブ」や小惑星探査機「はやぶさ2」などの新しい展示はとても良いものである。新しい事実を発見するといったワクワク感を与えてくれるこのような内容については、サイエンス・コミュニケーターがワークショップを行うなど、よりわかりやすい解説などの働きかけがあると、その意義が一層高まると思われる。	リニューアルした常設展示の解説については、科学館の中で学習会を開催するなど、科学館の職員・ボランティアを含めて日々研鑽を進めています。また、サイエンスコミュニケーターの活用については、今後検討していきます。（生涯学習振興課）
	小学校への科学館出張授業「おもしろ教室」などのアウトリーチ活動などにより、子どもの日常に科学が浸透する取組みを実施していることは高く評価できる。さらには、日本の製造業の基盤となる町工場でのものづくりの技術などの内容もより充実すると、子どもに身近な興味も持たせる契機になる可能性もある。	現在、常設展示の「テクノショップ」において、身近な企業の仕事を紹介していますが、科学フェスタの「オンリーワン企業」での紹介も含めて、可能性を探っていきたく考えています。（生涯学習振興課）
	科学の今を伝える学術性を持った「高度化」、そして学校教育への活用や市民の教養醸成といった「大衆化」といった異なる二つのベクトルを持った戦略的方向性を実現することは難しいことであろうが、科学館にはその難題に果敢に挑戦して欲しく思う。千葉市が「科学都市ちば」として、その実態を誇れるようにするためには、千葉市科学館には先導的役割があり、ぜひその使命を遂行していただきたい。	日々の常設展示の充実、特別展・企画展の企画、科学フェスタの充実等を通じて、「科学都市ちば」を先導できるよう、努めていきます。（生涯学習振興課）